

ふたりのコラム

November 30, 2020

認定こども園あかみ幼稚園	園長	中田幸子
認定こども園メイプルキッズ	施設長	新井利枝

《3・4・5歳児》

いもほりやサークル活動を通して・・・

園庭の木々の紅葉した葉たちが、風に吹かれて、季節の移り変わりを惜んでいるようです。ぽかぽか暖かい日もあれば、風が冷たく吹く日もありますが、子どもたちは園庭で元気な声を響かせながら、走り回っています。



先日、保護者会事業の一つであるいもほりが行われました。今年度は、有志の保護者とファームの方々※1に子どもたちが掘り終わった後の掘り起し作業をお願いしました（今年は豊作で、大きさもよく、量もたくさん取れましたので、ご家庭に持ち帰ることができましたね）。園の畑で保護者と世代の違う方々が関わりながら、子どもたちのために作業して下さる姿を見て有難いことだなあと改めて、感じました。

園が、コミュニティーの中心となり、人々の輪が広がっていくことが、認定こども園の総合機能の一つであります。

このような場面は、窯場での泥工房（でくのぼう）サークル※2においても言えることです。今月は、穏やかで良い日が続きましたので、サークルのメンバーの方々を中心に、在園児保護者の体験活動なども行われました。

※1 園内外の畑で、さつまいもや小豆・大豆などを育てることを園の職員とともに行ってきている地域のお年寄り（お年寄りというには失礼なくらい若い方々です…）

※2 園の窯場を中心に活動している焼き物づくりのサークル。卒園生・在園児保護者、地域の方々などで構成されています。理事長もメンバーの一員です。

地域とのつながりが崩れつつある現在、プライバシーは守りつつも、人と人とのつながりは大切ですね。昔とは違った形かもしれませんが、今風の地域コミュニティの構築をしていきたいものです。私たち認定こども園が、子どもを中心とした地域コミュニティ再生の場になっていけると信じています。それが、子どもを真ん中においたまちづくりにつながっていくことでしょう。

まつりを通して・・・



今月9日（月）～13日（金）、秋まつり（保護者会と園との共催事業）が行われました。飾りつけや、商品の袋詰め、片付けに至るまで、保護者の皆様の参画をありがとうございました。おかげをもちまして、子どもたちは、活動をより楽しめたと感じました。秋まつりの様子は、もり組主任だよりで他学年の皆様も知っていただけたと思います。

例年開催してきた夏まつりの目的は、「保護者と園が一枚岩となり、地域にも開かれたおまつり」です。今回の秋まつりでは、場はともにせずとも、飾りつけなどで保護者の方々がまつり開催にご尽力くださり、ありがとうございました。地域の方に当日参加していただくことはできませんでしたが、例年いらしていただいている地域の町会長様を初め、ご来賓の方々には、今回の祭りの様子を紙面でご報告させていただきました。また今年も、たくさんの企業協賛をいただきました。

前項でもお伝えしました通り、地域とのつながりは、認定こども園として大切なことの一つでもあり、地域の方々が、子どもたちのことをより大切に思ってくださいることにもつながってくると思います。



それから、今年さらにプラスになったことは、その輪に、子どもたちが今まで以上に深くかかわれたことです。例年は、みこし・山車とすみれ音頭の参加と、お客さんとして楽しむ…ということでしたが、今年は、もり組が自分たちで企画して、お店屋さんを行い、そこに小さい学年の子どもたちが買い物に行ったことです。もり組にとって、運動会で“クラス意識”を高め、2月のキッズフェスティバルの活動で“合意の形成”に向かうまでの流れの中で、今のこの時期、小グループの仲間と話し合い、意見を出し合い、すり合わせていく経験はとても大切なことです。それを、モノづくりを通して行うことができました。

まつりが終わって、もり組の子どもたちは自信に満ちた表情をしていました。手ごたえを感じられたのでしょうか。他学年の子どもたちも、お客さんとして招待されて、目移りするくらいたくさんの商品の中から買い物をして、とても嬉しそうでした。私がテラスを通りかかるたびに、子どもたちから「これ、もり組さんから買ってきたんだよ!!」と、とても嬉しそうに、そして自慢そうに見せてくれました。もり組はすごいなあと感じ、自分事のようにうれしかったのでしょうか。

このように、今回、コロナ禍により代替りの策として行われた秋まつりでしたが、たくさん得るものがあったと感じました。ありがとうございました。

第6回 子ども・子育てフォーラムが開催されました

先日、第6回子ども・子育てフォーラムが開催されました。これは、例年の子ども・子育てフォーラムに公開保育を加え、来年度の子ども・子育て国際フォーラムを見据えたプレ企画です。佐野市と東京大学大学院教育学研究科が「保育・教育研究交流連携事業に関する協定を結んでいることはご存じの方も多いかと思いますが、このフォーラムには、東京大学発達保育実践制作センター（Cedep）メンバーである野澤祥子氏と、かつてから、当法人とつながりを持ち「午後の保育のありかた」や「記録の取り方と分析」についての共同研究を進めてきた東洋大学高橋健介氏のご協力で行うこととなりました。

令和3年10月24日（日）、25（月）に、佐野市子ども・子育て国際フォーラムが開催されますが、それに向けて、いろいろな形が検討されているところです。このフォーラムは、保育者のためのものだけではなく、子育て中の方はもちろん、子どもを真ん中に置いた、まちづくりのためにも大切なものであると位置づけられています。来年度のフォーラムを楽しみにしていただけたらと思います。



（文責：中田）

《0・1・2歳児》

秋も深まってきましたね。

園庭には、日に日に落ち葉が増え、子ども達も大喜び！！落ち葉の上を歩いてカサカサする音を不思議そうに聞いていたり、両手でパーっと舞い上がらせたり・・・思い思いに楽しんでいるようです。また、メイプルキッズの子どもたちは、園外へお散歩にも出かけ、冷たい風を感じたり、木の実や赤く染まった葉っぱを見つけたりと、五感で秋を感じています。これからも季節を感じる心を大切にしながら保育をしていきたいと思ひます。

さて今月は、保護者会との協働で、秋まつりウィークが開催されました。

役員の方々、準備等大変お世話になりました。

メイプルキッズの子ども達も、大きいクラスのテラスに飾られたおまつりの飾りを見に行ったり、もり組のお店屋さんにお買い物に行ったり・・・おみこしを担ぐ様子やすみれ音頭を踊っている姿を羨望の眼差しで見つめていたり、それぞれの発達にあった参加の仕方でおまつり気分を楽しんでいました。

もり組のお店屋さんの本物に近いクオリティの高さに、2歳児クラスの子どもたちは、どれにしようかな？と目を輝かせていました。ただ買うだけでなく、アトラクションのように遊べるお店や、〇〇釣り屋さんなどいろいろなアイデアのお店屋さんがあり、おまつりさながらの盛り上がりで、あちこちで「いらっしゃい、いらっしゃい」と呼び込みの声が響いていました。

普段の遊びの中でもお店屋さんが盛り上がり、他クラスがお客さんになることもあります。今回は秋まつりでお店屋さんを開き、お客さん（2-5歳）に売るといふ目的がありました。そのためには、商品の数を沢山準備したり、お店を作ったりなど、目的達成のためにやらねばならぬことが多々あったことでしょう。いままでの園生活の中で様々なことを学んできたもり組の子どもたちが、その力を存分に発揮している姿を目の当たりにして、あらためて子どもたち自身の育とうとする力ってすごいな、そしてそうした姿をバックアップしている保育って尊いな・・・なんて1人物思いにふけてしまいました。



さて、話は変わりますが、もうひとつ子どもの育ちについて・・・



先日、メイプルキッズの砂場にいた1歳児クラスのK君が私に気づき近寄ってくると、満面の笑みで「見て見て、M君がいるよ」と声をかけてきました。私が「うん、M君だね、楽しそうだね」と返すと「ぼくも行く」と言ってM君に近寄っていきました。その後は、近くにいた保育者やM君と楽しそうに遊び、そこでも「見て見て」「できたよ」など私に向かって声をかけてきました。ほんの些細なやりとりですが、このK君少し前までは、まだこんなに上手に話すことができなかったもので、その成長ぶりが嬉しくて、しばらくK君とのやりとりを楽しんでしまいました。

言葉は、他者に伝えたいという思いがあってこそそのものです。言葉で話せるようになったから何かを伝えられるのではなく、言葉を話す前から、泣くことや身振りなどで周りの人とのやりとりを通して、相手に伝えたいという思いを育てていきます。それが言葉へとつながっていくのです。子どもの「伝えたい」という思いを大事に関わっていきたいですね。

ドキドキ、ワクワクするのって楽しい！！

先日の土曜日保育で、夕方、年長組のH君が1人になった時のこと、まさひこ先生がトランプを取り出し、「H君、この中から好きなカード選んで」と声を掛けました。

お、マジック？と私も興味津々で様子を伺っていました。H君が好きなカードを選び、そのマークと番号を覚えてもとに戻した後、まさひこ先生がシャッフル。その後、1枚のカードを少しずつ引き出し、「H君が選んだカードはこれかな？」と見せました。私もH君も「えー！！なんで？」とびっくり仰天。思わず、「まさひこ先生、もう一回やって」と言ってしまいました。絶対種を見破ってやる！と思い、目を皿のようにしてよく見ていたのですが、さっぱり分からず、H君と2人で次こそは、とワクワクしながら、カードを選んでいました。そのうちにH君のお迎えの時間になり、楽しかったマジックタイムも終了！！

みんなが帰ってしまっても寂しくならないよう、まさひこ先生の特別タイムでした。保育者は時には、エンターティナーのように、子ども達をドキドキ、ワクワクさせることもできるんです！！この先生何をやるんだろう？何かやってくれそう！この先生といると楽しい！

そんなワクワク感が子どもたちを惹きつけるのです。もちろん、そんなとき、私達保育者もワクワクします。

H君の前では、さすがに種明かしはお願いできなかったもので、帰った後にまさひこ先生に種明かししてもらい、なるほど〜！と感心しきりでした。「子ども達がドキドキ、ワクワクしているのを見るのが好きなんです」とのまさひこ先生の言葉に「だよね〜！！」と盛り上がってしまいました。そして、まさひこ先生にマジックの弟子入りをしようかと真剣に思っている今日この頃です。（文責：新井）

